

7. 第 19–20 回高木レクチャーについて

第 19 回高木レクチャー (2017 年 7 月, 京都, RIMS) の報告と第 20 回高木レクチャー (2017 年 11 月, 東京) の予定をお知らせいたします。

高木貞治先生の名を冠した講演会「高木レクチャー」は、卓越した数学者を日本に招聘し、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。講演は専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象として行われます。高木レクチャーをもとに書き下ろした研究総説は、講演の当日に「高木ブックレット」として配布され、その後、加筆修正された原稿は査読を経て *Japanese Journal of Mathematics (JJM)* に掲載されることになっています。

この趣旨に基づいた「高木レクチャー」の創設が 2006 年 3 月 26 日 (日), 日本数学会評議員会で承認され, 2006 年 11 月に第 1 回高木レクチャーが京都大学数理解析研究所で開催されました。

第 19 回高木レクチャーは, 2017 年 7 月 8 日 (土) – 9 日 (日) に京都大学数理解析研究所において, 日本数学会と京都大学数理解析研究所の主催で行われました。今回は 3 人の講演者をお招きし,

- Mark Braverman (Princeton Univ.)
“Information Complexity and Applications”
(情報の複雑性の理論とその応用)
- Hugo Duminil-Copin (IHÉS)
“Sharp Threshold Phenomena in Statistical Physics”
(統計物理における相転移現象について)
- Roger E. Howe (Yale Univ.)
“Duality and Rank in Representation Theory”
(表現論における双対性と階数)

の題目で, 1 時間×2 回の講演が行われました。当日には, 予稿の「高木ブックレット」(iv+117 頁) が配布されました。この最終版の研究総説論文は査読後, JJM に掲載さ

れる予定です。

講演のビデオは日本数学会情報システム運用委員会と東大数理 Video Archives プロジェクトチームにより撮影編集が行われ, web 上で一般公開する予定です。

第 20 回高木レクチャーは,
日時: 2017 年 11 月 4 日 (土)
場所: 東京大学大学院数理科学研究科
講演者:

Martin Hairer (Univ. of Warwick)
Andrei Okounkov
(Columbia Univ.・京都大学スーパー
グローバルコース特別招聘教授)

主催: 日本数学会
東京大学大学院数理科学研究科
組織委員: 小野薫, 河東泰之, 小林俊行,
齋藤毅, 中島啓

の予定で開催いたします。

講演はそれぞれ 2 回ずつ行われます。最新情報は高木レクチャーの HP

http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/~toshi/takagi_jp/

をご覧ください。

JJM は, 2006 年に廃刊の危機を乗り越え, 3rd Series として「新しい創造を引き起こすような研究総説論文」を掲載するジャーナルとして生まれ変わりました。

ジャーナルのホームページ

<http://www.springer.jp/JJM/>

では, 最新の情報とともに, JJM 3rd Series に掲載された論文のアブストラクトの和訳も掲載しています。

(小林俊行 記)